

## 1.3 医薬分業の推進

### 1. 医薬分業の現状と課題について

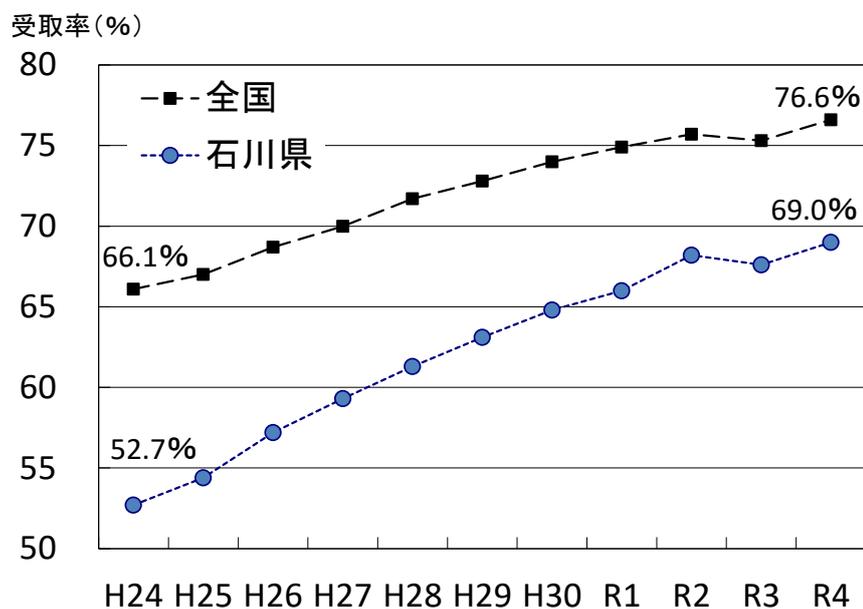
- 本県の医薬分業の進展度は、全国平均より低い状況であるものの、着実に定着してきている。
- 本県の薬局数は全国並みに増加しているが、患者主体の医薬分業の実現に向け、多くの薬局がかかりつけ薬局としての機能を備えるように取り組む必要がある。

#### (1) 医薬分業の現状

##### 【院外処方箋受取率の推移】

○石川県における院外処方箋の受取率（医薬分業の推進度合いを示すもの）は、令和4年度で69.0%と、全国平均76.6%と比べると低い状況（全国38位）ではあるものの、10年間の増加率は石川県16.3%と全国平均10.5%を上回っており、着実に定着してきている。

図 処方箋受取率の年次推移（全国・石川県：H24～R4）



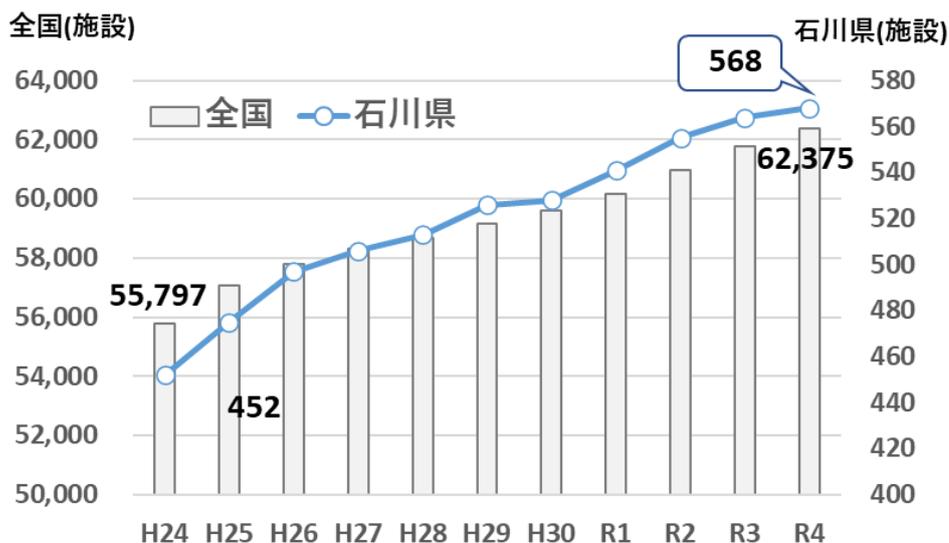
出典：「医薬分業進捗状況（保険調剤の動向）」（日本薬剤師会）

（備考） 処方箋受取率=薬局での処方箋受取枚数/外来処方件数×100

【薬局数の推移】

○石川県における薬局数は、令和4年度末で568施設であり、10年間で116施設増加（1.3倍）、また人口10万対薬局数は令和4年度末で51.3（全国25位）であり、全国平均49.9を上回っている。また、薬局のうち、処方箋に基づく保険調剤を行っている保険薬局の割合が98.1%と、全国平均97.5%を上回っており、処方箋の応需体制も定着してきている。

図 薬局数の年次推移（全国・石川県：H24～R4）



出典：「衛生行政報告例」（厚生労働省）

（2）かかりつけ薬局・薬剤師の現状

○国は、平成27年10月に、患者本位の医薬分業の実現に向け、「患者のための薬局ビジョン」を策定した。さらなる医薬分業の推進には、現在の薬局が、かかりつけ薬局としての機能を備えるよう取り組むとともに、県民に対してその認知度の向上を図る必要がある。

## 2. 医薬分業推進の施策の方向

**【目的（目指す方向）】**

- 県民が必要とする薬局・薬剤師サービスの提供

**【目標】**

- 院外処方箋応需体制の整備

### (1) 薬剤師の資質向上

○ 県薬剤師会は、薬剤師の質の向上・専門性の向上を目指した研修を実施する。

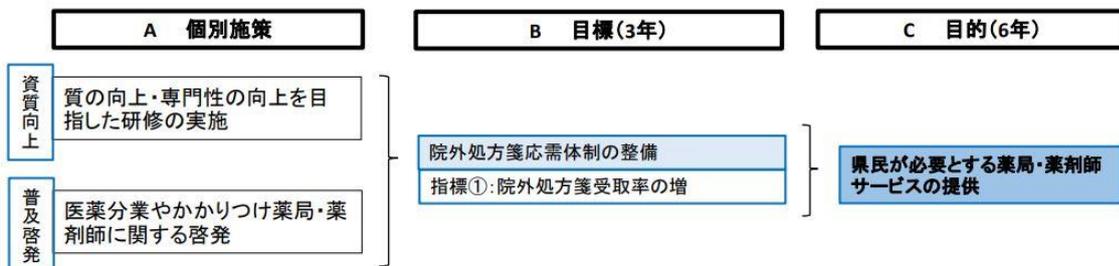
○ 県は、県薬剤師会が行う研修等を支援する。

### (2) 普及啓発

○ 県薬剤師会は、資材やホームページ等を活用して、かかりつけ薬局・薬剤師に関する普及啓発に努める。

○ 県は、県薬剤師会の普及活動を支援するとともに、薬局機能情報などを通じて処方箋応需体制やかかりつけ薬局・薬剤師の認知度の向上に努める。

## 施策・指標マップ



## 数値目標

分類	指 標		現状値 (R4)	目標値	
	名 称	出典・説明		R8 年度 (中間年)	R11 年度 (最終年)
B	院外処方箋受取率	日本薬剤師会調査	69.0%	増加	増加